

## シャチ生態調査に関する計測機器設置のため クラウドファンディングサービス「Readyfor」にて支援を募集

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター三谷曜子准教授は、READYFOR株式会社が運営する国内初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「Readyfor」にて、6/17（月）から支援金募集を開始しました。

### 【クラウドファンディングプロジェクト概要】

北海道沿岸では、シャチが多数発見されており、このシャチの調査のため、東海大学、常磐大学、三重大学、京都大学、北海道大学の5大学で、北海道シャチ研究大学連合（Uni-horp）を2011年に立ち上げました。

同連合では、北海道周辺海域のシャチの個体識別写真を撮影したり、鳴き声を録音したり、衛星発信器でシャチの追跡を行っています。これまでの研究から、「シャチは主に知床半島の東側、急深な根室海峡を主に利用すること」、そして「夏になると根室海峡には入らず、北方四島のオホーツク海側を利用すること」がわかりました。

今後、これらの移動の理由・目的を明らかにするためには、水温、塩分、海の流れといった海洋物理のデータや、海棲哺乳類の鳴き声の季節変化を知る必要があることから、計測機器（係留系）を海中に設置しようと考えていますが、必要な資金が不足しているため、クラウドファンディングサービスにて支援金を募集します。

### 「シャチに出会える海、知床羅臼。その謎を解く海中のヒントを探れ」

実行者：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 海獣班 准教授 三谷曜子

目標金額：300 万円

形式：All or Nothing（目標金額に至った場合のみ成立する形式）/購入型

募集期間：2019年6月17日（月）17時～7月31日（水）23時

（URL：<https://readyfor.jp/projects/hokudai-shiretoko-orca>） QRコード→



Readyfor プロジェクトを探す クラウドファンディングとは はじめる さがす

シャチに出会える海、知床羅臼。その謎を解く海中のヒントを探れ

支援総額	0円
目標金額	3,000,000円
支援者数	0人
残り日数	44日

購入型 All or Nothing

0%

このプロジェクトを支援する  
(ログインが必要です)

## ・知床・羅臼沖に来遊するシャチについて

シャチ（鯨; killer whale）は、全世界の海に分布していますが、海棲哺乳類を食べるグループと魚を食べるグループでは、同じ海域にいても交流することがなく、遺伝的にも異なっています。羅臼沖でもクジラを食べているグループが見られている一方で、ミンククジラと共生しているグループもいます。



シャチは母親を中心とした母系のグループで行動していることから、他のグループと出会ったときに交尾をしていると考えられています。羅臼沖でも複数グループの集合が確認されていることから、羅臼沖が繁殖場としての機能をもっている可能性があります。また、Uni-horpが行ったシャチの行動分類の結果、移動・休息の時間が最も長かったこと、採餌行動の指標とされるアーチダイビング（腰を持ち上げてから潜る行動）を様々な場所で行っていたことがわかりました。よってシャチは、餌を探して移動しつつ、休息の場としても羅臼沖を利用していると、現状では考えられています。

行っていたことがわかりました。よってシャチは、餌を探して移動しつつ、休息の場としても羅臼沖を利用していると、現状では考えられています。

## ・研究内容について

シャチが主に知床半島の東側、急深な根室海峡を主に利用するのはなぜか、夏になると根室海峡には入らず、北方四島のオホーツク海側を利用するのはなぜか、これらの謎を解き明かすために、以下2つの仮説を立てました。①知床半島の東西で、餌となる生物や海底地形などの環境が違う、②観測できていないだけで、実は知床半島の東西を行き来している。これらの仮説を検証するためには、海洋環境を長期間モニタリングし、季節と地理に関するデータを得る必要があります。



そこで、北海道大学水産学部附属練習船「おしよる丸」で目視・海洋観測を行うほか、係留系と呼ばれる計測機器を知床半島の東西の水深400-600m地点に設置し、シャチが潜る深度300-400mのデータを1年間記録することで、海洋環境や海棲哺乳類の存在の季節変化を明らかにしようと考えています。

## 【当プロジェクトの意義】

日本におけるシャチの研究は、諸外国に比べるとまだまだ始まったばかりです。しかし、羅臼の海に集まるシャチは、研究が進んでいるカナダなどのシャチとは違った特徴があることが、既にいくつか明らかになってきており、この研究を継続することで、未知なるシャチの生態を発信し続けることが出来ます。

シャチと環境の相互作用を明らかにするためには、長期間のモニタリングが必要です。このプロジェクトを機に、羅臼の海にシャチが集まるメカニズムについて環境から海棲哺乳類まで、海洋生態系を多層的に縦断できる研究が開始されます。今回のプロジェクトは、これまでわかって来たことから照らし出された、新たな疑問に答えるという、次の段階への一歩となります。

## お問い合わせ先

- ・研究内容に関すること

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 海獣班

准教授 三谷曜子（みたにようこ）

T E L / F A X 0138-85-6625 メール yo\_mitani@fsc.hokudai.ac.jp

U R L <https://www.facebook.com/HokkaidOcean-Mammal-Team-384204002179239>

<https://sites.google.com/view/uni-horp/home> (Uni-horp)

- ・クラウドファンディングに関すること

READYFOR 株式会社 PR 室

T E L 03-6801-5767 メール press@readyfor.jp U R L <https://readyfor.jp/>

## 配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

